まえがき

馬（うま）の語源は、「美（うま）」なのだそうです。

古くから、人間にとって美しく、近しい動物だったからでしょう。

本書では、時に麗しく時に妖しい人馬の交流の歴史を、

古典文学に現れる奇談珍話でたどってみました。

どうぞお楽しみください。

書籍のコピー，スキャン，デジタル化等による複製は，
著作権法上での例外を除き禁じられています。

目次

1. 怪異の巻：10話 …… 1

『怪異の島の白馬』（『今昔物語集』巻第五・第一話） …… 2
『馬の尻から入って口から出る』（『今昔物語集』巻第二十・第九話） …… 12
『馬の尻はつるつる』（『今昔物語集』巻第二十七・第十三話） …… 17
『馬の左右』（『今昔物語集』巻第二十七・第三十四話） …… 25
『馬に乗りたがる狐』（『今昔物語集』巻第二十七・第四十一話） …… 28
『馬上で歌った男』（『今昔物語集』巻第二十七・第四十五話） …… 35
『馬の背の瓜』（『今昔物語集』巻第二十八・第四十話） …… 37
『法師と馬』（『今昔物語集』巻第三十一・第十四話） …… 41
『馬の怒り』（『沙石集』巻第九ノ十五） …… 48
『馬を放って嫌がらせ』（『十訓抄』上巻・巻第四ノ十六） …… 50

2. 驚愕の巻：15話 …… 53

『馬に転生した母』（『今昔物語集』巻第九・第十七話） …… 54
『藤原広嗣の愛馬』（『今昔物語集』巻第十一・第六話） …… 57
『死んだはずの馬』（『今昔物語集』巻第十六・第二十八話） …… 61
『闇の中から現れた馬』（『今昔物語集』巻第二十三・第十四話） …… 69
『馬泥棒の油断』（『今昔物語集』巻第二十五・第十二話） …… 73
『馬を惜しまぬ藤原陳忠』（『今昔物語集』巻第二十八・第三十八話） …… 79
『馬泥棒はささやく』（『今昔物語集』巻第二十九・第十三話） …… 84
『その馬には乗るな』（『今昔物語集』巻第二十九・第二十五話） …… 88
『前世は白馬』（『法華験記』巻之上・第三十六話） …… 93
『競馬における神慮』（『古今著聞集』巻第十・第三六六話） …… 95
『落馬しても、気絶しても・・・』（『古今著聞集』巻第十・第三六九話） …… 99
『馬に踏まれても平気』（『古今著聞集』巻第十・第三七六話） …… 101
『二人の騎手の死』（『古今著聞集』巻第十五・第四八一話） …… 103
『馬をひく不思議な少年』（『十訓抄』上巻・巻第三ノ十四） …… 105

『悪いのは馬？』（『続鳩翁道話』）……106

3. 納得の巻：23話 ……109

『馬を見分けねば国が滅ぶ』（『今昔物語集』巻第五・第三十二話）……110
『馬殺しの常習犯』（『今昔物語集』巻第二十・第二十九話）……115
『競馬の作法』（『今昔物語集』巻第二十三・第三十六話）……117
『馬上の弓合戦』（『今昔物語集』巻第二十五・第三話）……119
『湖を渡る馬』（『今昔物語集』巻第二十五・第九話）……122
『清原元輔の落馬』（『今昔物語集』巻第二十八・第六話）……127
『馬と蟹』（『海道記』）……131
『馬か僧か』（『古事談』巻第三・第一〇八話）……132
『騎馬の老武士』（『古事談』巻第四・第十四話）……135
『馬泥棒を捕らえても』（『続古事談』巻第五・第三十六話）……137
『一騎当千』（『古今著聞集』巻第九・第三四一話）……138
『名人の馬の絵』（『古今著聞集』巻第十一・第三八五話）……140
『名馬を手に入れるには』（『古今著聞集』巻第十六・第五一二話）……141
『競馬に負けて死ぬやつはいない』（『古今著聞集』巻第十六・第五一三話）……143
『暴れ馬を乗りこなす秘訣』（『古今著聞集』巻第十六・第五一五話）……145
『上人に仕える馬』（『古今著聞集』巻第二十・第七一九話）……146
『翁と馬』（『古今著聞集』巻第二十・第七二二話）……148
『馬商人の知恵』（『沙石集』巻第八ノ二）……150
『馬と牛』（『十訓抄』中巻・巻第七ノ七）……151
『真田信幸の二百騎』（『想古録』）……152
『烈公の馬』（『想古録』）……153
『悪馬も鞍次第』（『常山紀談』巻ノ二十三）……155
『馬に乗った雷さま』（『耳嚢』巻ノ三）……157

4. 感銘の巻：13話 ……159

『聖徳太子の黒い小馬』（『今昔物語集』巻第十一・第一話）……160
『騎馬の大友皇子、絶体絶命』（『今昔物語集』巻第十一・第三十話）……161

1 怪異の巻

『白馬の不思議な道案内』（『今昔物語集』巻第十一・第三十六話）……164
『馬泥棒の濡れ衣』（『今昔物語集』巻第十三・第二十話）……167
『絵馬の足』（『今昔物語集』巻第十三・第三十四話）……170
『馬を盗んだのは誰だ』（『今昔物語集』巻第十三・第三十八話）……174
『馬上での失態と父子』（『今昔物語集』巻第十九・第二十六話）……177
『暴れ馬でも大丈夫』（『古今著聞集』巻第十・第三六一話）……180
『乗馬の服装』（『古今著聞集』巻第十・第三六三話）……182
『悪馬を御する名人』（『古今著聞集』巻第十・第三六四話）……184
『名騎手の二度の功名』（『古今著聞集』巻第十・第三六八話）……187
『名馬を買う』（『近古史談』巻第一・織篇第一）……189
『宇治川を渡る馬』（『近古史談』巻第一・織篇第一）……192
出典解説……194

『馬を放って嫌がらせ』

（『十訓抄』上巻・巻第四ノ十六）

むかし、橘広相という学者貴族がいた。

学識に優れていたので、勅命の書類の文面を種々作成していた。

ある時、藤原基経宛の勅令に、

「阿衡（帝の補佐役の最高位）の役に任ずる」

と記したところ、儒学者の藤原佐世がこの文面を見て、基経にこう讒言した。

「あなたさまは、いつの間に、摂政の座をお退きになられたのでしょうか。このたびの阿衡というお役は、位こそあれ、実際のまつりごとは行わない役職なのでございますよ。それで宜しいのですか？」

基経は大いに怒り、

「いまや阿衡という役に任じられた私は、もはや朝廷で直接政務を執る身分ではございませんので・・・」

『悪いのは馬？』

（『続鳩翁道話』）

むかし、ある村に、富裕な百姓が暮らしていた。

大勢の奉公人を召し抱えていたが、その中に、十五、六歳の少年がいた。

少年には、寝小便の癖があった。医者にも診せ、薬も飲ませたが、一向に治らない。毎晩のように寝小便を垂れるので、夜具も畳も濡れて臭くなり、みな困り果てた。

そこで、ある者が一計を案じた。

馬小屋の二階に寝かせるようにしたのである。

二階の床は、丸竹を編んだすのこになっているから、ここへ少年を寝かせれば、たとえ小便がじゃじゃ漏れに漏れても、すのこを通って、一階の床へ流れ落ちる。一階には馬が二頭おり、床にはわらが敷き詰めてあるから、少年の小便も馬の小便と同様にそのわらに吸収されて、かえって良い肥やしが出来る、という寸法である。

さあ、気の毒なのは、一階で暮らす馬たちであった。

『一騎当千（いっきとうせん）』

（『古今著聞集』巻第九・第三四一話）

むかし、左衛門尉貞綱（さえもんのじょうさだつな）という武将がいた。

ある夜、京の貞綱の屋敷に強盗が押し入った。

貞綱は酒に酔って、愛人と寝所にいた。寝込みを襲われた貞綱は、刀を抜いて応戦しつつ、女を連れて裏庭へ出、垣根をこえて隣家へ逃れた。

このため、世の人々は、

「武士たる者が、強盗に襲われて、まともに戦いもせず。女と一緒に逃げ出したとは、情けない」

とあさけったが、貞綱は、そのたびごとに、

「武士というものは、主君の一大事という折にこそ、命をかけて戦うのである。泥棒ごときと命のやりとりをするのは、愚かなことだ」

と応じて、気にもとめなかった。

その後、和田義盛（わだのよしもり）の合戦の折、貞綱は、昼間は黒い馬、夜には白い馬にまたがり、自軍の先頭をきって駆け巡って、一騎当千の戦功をあげた。日ごろの言葉にたがわぬ、見事な活躍ぶりであった。

著者紹介

福井 栄一（ふくい えいいち）

上方文化評論家。ヒトと動物の関係学会理事。関西大学社会学部非常勤講師。大阪府吹田市出身。京都大学法学部卒。京都大学大学院法学研究科修了（法学修士）。世界初の「上方文化評論家」として著書『上方学』（PHP文庫）を刊行し、「上方学」を創始。上方の芸能・歴史に関する評論を手がけ、国内外の各地で上方文化に関する講演やテレビ・ラジオ出演などを精力的におこない、その独特の「福井節」が人気を博す。著書は『説話をつれて京都古典漫歩』（京都書房）ほか、本書を含めて通算24冊を数える。剣道2段。
http://www7a.biglobe.ne.jp/~getsuei99/

馬耳東風では済まないはなし　定価はカバーに表示してあります。

2013年12月14日　1版1刷発行　ISBN978-4-7655-4246-3 C0039

著　者　福井栄一
発行者　長滋彦
発行所　技報堂出版株式会社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-2-5
電　話　営　業（03）（5217）0885
　　編　集（03）（5217）0881
　　F A X（03）（5217）0886
振替口座　00140-4-10

日本書籍出版協会会員
自然科学書協会会員
工学書協会会員
土木・建築書協会会員

Printed in Japan

http://gihodobooks.jp/

©Fukui, Eiichi 2013

装幀・組版：田中邦直　イラスト：川名　京
印刷・製本：愛甲社

落丁・乱丁はお取り替えいたします。
本書の無断複写は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。